

# 第1回あかしあ台リング道路街路樹のあり方検討会 報告

あかしあ台リング道路街路樹のあり方検討会

日時：2019.10.13.（日）10:00～12:00

於：あかしあ台コミュニティハウス集会室

委員欠席3名 傍聴3名

三田市道路河川課・あかしあ台自治会では、2018年2月のあかしあ台リング道路歩道改修事業説明会を起点として、リング道路街路樹に関する説明会・専門家による街路樹調査・危険木の試験伐採・48本の危険木の伐採・さらなる検討会の持ち方等の模索を進めてきました。このたび、「兵庫県まちづくり技術センター」の協力を得て、景観アドバイザーの辻信一氏をお迎えし、「あかしあ台リング道路街路樹のあり方検討会」を立ち上げ、第1回の検討会が開催されました。以下、その概要を報告します。

## 1. あかしあ台リング道路街路樹のあり方検討会メンバー紹介

2019年7月14日に開催された「リング道路歩道改修事業検討会」の議論を経て「リング道路街路樹のあり方検討会」委員の公募、および、「兵庫県まちづくり技術センター（兵庫県・県内市町村で出資する公益法人）」へ自治会から三田市を経由して景観アドバイザー派遣の要請を承認。景観アドバイザー1名・自治会から3名・まち協から2名・公募16名・三田市道路河川課・三田市公園みどり課で「あかしあ台リング道路街路樹のあり方検討会」を編成しました。

景観アドバイザー：辻信一

委員：1丁目：奥村芳和（事務局）・谷渕建志・永井優子・藤井佳代子・前中貴司・前中里美

2丁目：畑中和代

3丁目：川渕美津子（事務局）・川渕吉男・澤田学・重枝哲也・

高嶋清子（事務局）・高嶋忠・鶴野有史（代表）・平城富美子・村上勝廣

4丁目：加藤次裕（事務局）・酒井俊一・羽田範子

5丁目：岡村佳高・山北信勝

三田市道路河川課：（課長）片山昇（副課長）森選人（課員）東風行彦

三田市公園みどり課：（課長）島田浩明

## 2. 鶴野代表ごあいさつ

積極的にご発言頂く中で、忌憚のないご意見をいただきたい。

## 3. 片山課長ごあいさつ

昨年から議論を続けてきたが、十分擦り合わせができなかった。今回、検討委員を募り、「兵庫県まちづくり技術センター」から景観アドバイザーの辻信一氏を迎え、

## 第2回リング道路街路樹のあり方検討会

日時：2019年11月24日（日）10:00～12:00

場所：あかしあ台コミュニティハウス集会室

講義：生物多様性・侵略的外来種について（赤澤先生）

傍聴可能です。多くの方々のご参加をお待ちしています。

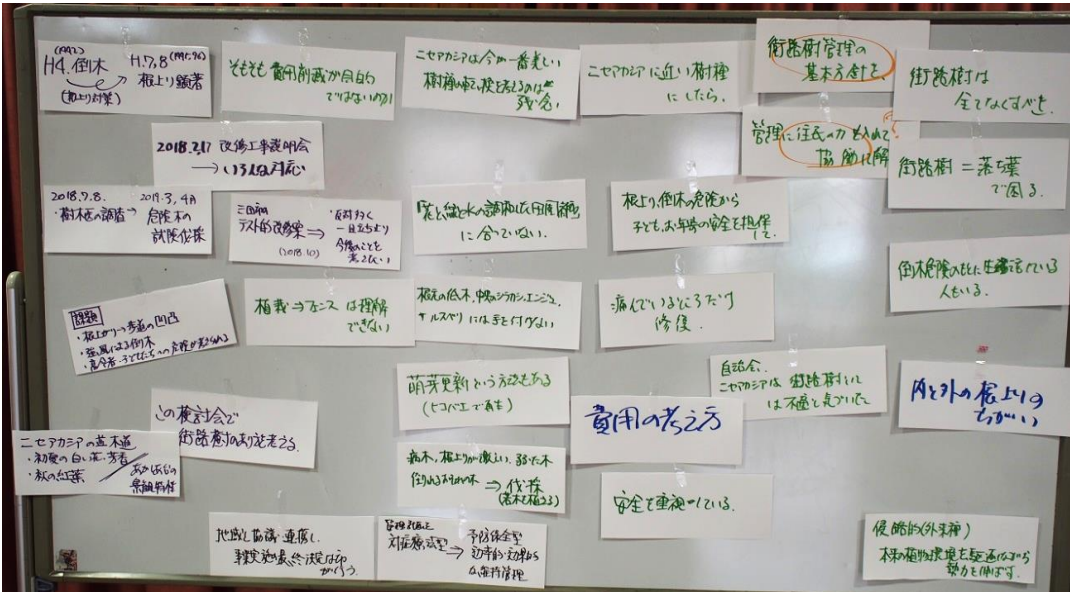
前向きに議論を進め、年度末には、他地域でも参考になるような方針をまとめたい。

#### 4. 辻信一景観アドバイザーごあいさつ

現在、(株)環境緑地設計研究所に所属し、50年間、阪神淡路大震災後の再開発などのコンサルタント業務に携わってきた。街路樹のあり方について勉強し、議論を進め、広報活動を通じ地域住民へはかり、素案づくりのお手伝いをする。第1回目～2回目は基礎的な知識の勉強（街路樹の役割・ニセアカシアの特性・生物多様性等）と議論を行い、3回目～5回目で案の取りまとめへと持って行きたい。難しい仕事ではあるが、取りまとめまでのプロセスを大切にしながら進めたい。

#### 5. 辻氏によるこれまでの経過の確認

1992年の台風でニセアカシア街路樹の倒木・枝折が発生、1995・1996年には、ニセアカシアの根上りで歩道の全面改修。この時点で自治会は、ニセアカシアは浅根性で根上りが激しく台風常襲の西日本では街路樹に適さない、また、成長が早く寿命が短い樹木であることに気づく。その後も、根上りのため三田市による遮根板の挿入・舗装の改修工事が繰り返される。2018年2月に三田市道路河川課からニセアカシアを1本おきに伐採し、歩道を全面的に改修する「リング道路歩道改修事業（あかしあ台小学校から北へ約250mをモデルとして実施）」の提示があり住民説明会を開催。「あかしあ台の並木道を愛する会」から反対の署名運動がおこる。2018年7月に専門家による街路樹調査実施、危険木51本、経過観察が必要な樹木91本と判定（全数327本）。その後3回の検討会のなかで、三田市案は白紙撤回に。危険木の試験伐採立ち会いを経て2019年4月に48本の危険木を伐採。2019年7月にあかしあ台自治会より「兵庫県まちづくり技術センター」へ景観アドバイザーの派遣要請。2019年10月13日に検討委員の公募手続きを経て「第1回あかしあ台のリング道路街路樹のあり方検討会」開催。



辻アドバイザーの論点整理

#### 6. 辻氏による論点整理

ニセアカシアのプラスの側面・街路樹の必要性（植樹後30年が経過し今が一番美しい街路樹に育つ：美しい樹形・大木化・初夏に美しい花と芳香・蜜源植物、街路樹の機能：美しい景観・真夏の木陰・温暖化防止・住民の心に潤い）

ニセアカシアのマイナスの側面（浅根性：台風で倒木・枝折・根上り、歩道の根上りが歩行者の障害に、倒木からの安全の確保の必要、樹木調査結果：危険木・経過観察樹木への対応、病木：ベッコウタケ・コフキタケ、樹木に過酷な植栽環境、落葉清掃の手間）

これからの街路樹のあり方への対応（樹種転換：ニセアカシアに似たエンジュを候補にあげてほしい、街路樹は過酷な環境で生育：植樹枡を大きくする、傷んでいるところだけ修復、街路樹管理の方針の作成、街路樹にやさしい植樹環境の整備）

ニュータウン建設時のコンセプト（神戸・三田国際公園都市の理念を崩さない、街の魅力の維持）

安心・安全のまちづくり（危険木の除去、根上り等の通行障害の除去、街灯・信号を隠さない、交差点では見通しの確保）

## 7. 赤澤先生の講義

これまでの検討会でもお世話になりました、兵庫県立大学自然・環境科学研究室・兵庫県人と自然の博物館・兵庫県立淡路景観園芸学校の赤澤宏樹教授に下記のテーマで講義をお願いしました。赤澤先生は、「市民からの強剪定・伐採要望を克服する街路樹の維持管理システムと景観育成計画の構築（2015～2017 文科省科研費助成）」および「官・民・市民協働による街路樹の多面的な価値創出と管理の可能性（2018～2020 文科省科研費助成）」等のテーマで研究を継続されています。

### テーマ「今までの街路樹 これからの街路樹」講義概要

これまでの街路樹（昭和の大合併期の環境基準で植栽：とにかく強い樹種を選定・統一美が基本、公共用地で公共が管理することが原則：整備は頑張るが育成には関心薄、大きくなるにつれてくる課題：大径木化・落葉・倒木・病気）

街路樹にまつわる課題の要因（街路空間における育成環境要因、剪定技術の低下等の技術的要因、予算削減等の経済的要因、単年度工事や評価の不備等の制度的要因、市民要望の社会的要因）

街路樹の機能（存在効果：微気候調節・景観形成・生物多様性・防災機能、利用効果：緑化活動の場・賑わいの創出、媒体効果：コミュニティ形成・交流）

これからの街路樹の考え方①（微気候調節：夏の日陰効果・適切な樹形の木を適切な大きさに育てる）

これからの街路樹の考え方②（景観形成：並木だけが美しい街路樹？→多様で自然な景観づくり）

これからの街路樹の考え方③（災害対応：災害時に倒れない樹種と生育環境→根系の環境づくり・適切な樹間・病気対策）

これからの街路樹の考え方④（安心・安全：見通しの確保・信号や防犯灯への干渉→どこも同じ植栽でなくて良い）

これからの街路樹の考え方⑤（環境への配慮：できるだけ地域の環境に合った地域種を選ぶ→健全に育つ・侵略的外来種は避ける）

#### ニセアカシアの街路樹としての課題

・生態系被害防止外来種リスト（環境省）・日本の侵略的外来種ワースト 100・兵庫県の外来生物（ブラックリスト）・地表近くにロープ上の根系が広がる（根上りしやすい）・30年程度で根系の活力が低下し腐朽しもろくなる・萌芽力が旺盛で駆除が困難

これからの街路樹の考え方⑥（植樹帯の中低木もあわせて考える：高木は市で管理、中低木や地被類は地域で管理→良好な住環境を協働でつくる）

街路樹をとりまく様々な制約（道路構造令による生育環境に制約：小さい植樹枡や下水管のため根がはれない、バスの運行や電線・周辺建物からの制約で樹形に制約）

あかしあ台の街路樹の考え方（切る・切らない・植える・育てる・管理する→どう対処するのが適切かさらに時間軸との関係をどのように解決するか）

## 8. 委員間での意見交換

- ① 根上りは、アスファルトで表面をとじてしまうと起こるのか→根は水を求めて伸びるので雨水が浸透しなければ、アスファルトと土の間を這い、根上りを起こすことになる。
- ② 当初、リング道路内側歩道の半分は浸透性の土歩道であり、ニセアカシアの根上りは起こっていなかった。現にはじかみ池公園南の土歩道の部分の根上りはない。しかし、3丁目で数年前にアスファルト舗装したところでは3年ほどで根上りが発生している。浸透性のある舗装を考えて欲しい。ニセアカシアも植え方で根上りは防げるのではないか。
- ③ あかしあ台のシンボルツリーとなっている。あかしあ台のアイデンティティになっている。30年が経過し樹形も整い、ニセアカシアの花がたわわに咲く季節の景観は見事である。ただ、いろいろな問題が起こっている。街路樹維持管理の限界点が見えてきた。困難な課題である。今が、市・住民・専門家の協力で今後の方針を策定する好機である。
- ④ 改修工事にかかる諸費用や限度額を先に提示して欲しい。→先に提示されるとあるべき理想型を出せなくなる。あり方を議論した後、経費のことについては最後に議論すり合わせたい。
- ⑤ 高木の植樹柵の下に植える低木は、高木と水や肥料を取り合っかえって成長を阻害する要因になると聞いた。高木と低木のとり合わせはどのようにすれば良いのか。→確かにそのようなことは言える。高木の植栽柵には低木を植えずに雑草の繁茂を妨げる浸透性の石やブロックを置く方法もある。
- ⑥ 低木の植栽帯には、横断を防止する働きがあるが、その植栽帯の管理も大変である。フェンスにすれば無粋である。横断歩道でない所を横断するのは、住民のマナーレベル・住民の民度の問題ではないか。
- ⑦ 落葉樹の落葉対策への要望が強い。1本の木で20袋ほど出る。周辺住民の苦情がでる。基本的に三田市では、近隣住民が清掃することになっている。クスノキなどの常緑樹の街路樹は、冬太陽の光を遮り暗く冷たい雰囲気になり、一般的には採用されない。
- ⑧ 透水性の舗装は土舗装・インターロッキングなどが開発されているが、耐久性や歩きにくさに問題があり、決定打はない。
- ⑨ 公園の前には街路樹は必要ないという考え方もある。公園と街路樹との一体とした計画が必用である。ただ、公園が北にある場合は、南側の歩道に街路樹は必用である。マクロ的に考えるのではなく、ミクロ的に考える必要がある。
- ⑩ ニセアカシアを切った後に新しい木を植えることは困難。抜根は極めて難しい。伐根には周辺の歩道や縁石の撤去が必用で多大なお金がかかる。切り株はそのまま残し、朽ち果てるのを待つ必要がある。新しい樹木を植えるのは、切り株と切り株の間に植える必要がある。→それでは、切り株だらけの街になるのではないか。
- ⑪ 4月に危険木を伐採した折に萌芽更新でニセアカシアを再生する試験を行なっている。以前の検討会で萌芽更新の提案をした植栽の専門家である「あまがえる」の木下さんにメンバーに加わってほしい。
- ⑫ あかしあ台のリング道路街路樹問題は、新しい街路樹を植えるのではなく、街路樹更新であり、非常に困難な作業である。さらに、緊急に対策を講じなければならない案件であり、専門家のアドバイスと住民の理解協力が必要である。

### 第2回あかしあ台リング道路街路樹のあり方検討会について

- ▶ 次回の検討会については、勉強会として、再度、赤澤先生に生物多様性・侵略的外来種についての講義をお願いし、委員の間での議論をさらに深めたい。
- ▶ 日程・時間は、11月24日（日）10時～12時とし、場所は、あかしあ台コミュニティハウス集会室とする。今後おおむね月1回の会議を持つ予定である。